

草津市立人権センターだより

No.46 令和6(2024)年
8月1日 発行

people ぴーぶる

“ぴーぶる”は草津市立人権センターの愛称です。

人と人が差別なく、

同じ人間として交流できる場に…

という願いが込められています。



お互いを認め合い、尊重し合い、大切にされる社会を築くために

〒525-0032
滋賀県草津市大路二丁目1番35号
キラリエ草津 3階

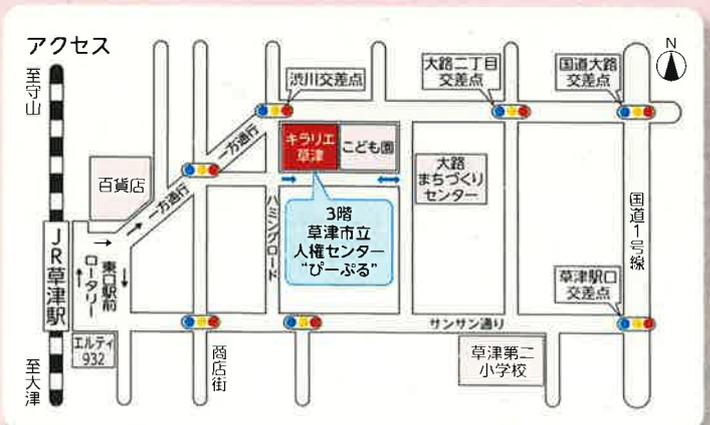
- TEL 啓発担当 077-563-1177
- 教育担当 077-563-1765
- 人権相談 077-563-1660
- FAX(センター共通) 077-563-7070
- E-mail jinkence@city.kusatsu.lg.jp
- 開館時間 午前8時30分~午後5時15分
- 休館日 日曜、祝日、年末・年始
- ホームページ
<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/sisetsuannai/jinken/jinkence/>

草津市立人権センター
ぴーぶる



草津市 人権センター

検索



差別のない平等な社会へ 「滋賀県水平社」創立から100年

～人の世に熱あれ 人間に光あれ～

1922年(大正11年)3月3日、人間の尊厳と平等を求め、部落の完全解放に向けて、京都の岡崎公会堂で全国水平社が創立されました。創立大会に参加した滋賀県内の被差別部落の人たちは、厳しい部落差別の中、差別を許している社会を自分たちの力で変えていくために滋賀県水平社を立ち上げる活動を進めていきました。



そして、全国水平社創立の2年後の1924年(大正13年)4月18日に甲賀郡寺庄村(現甲賀市)の厳浄寺で、滋賀県水平社と宝木水平社が創立されました。

差別のない平等な社会を求めて「滋賀県水平社」が結成されてから100年となる今年の4月18日(木)、「滋賀県水平社創立100周年記念事業」(主催:しが部落史研究会)が近江八幡市で開催され、郷土史家の武田一夫さんが、「滋賀県水平社創立について」と題し講演され、当時の創立に向けた闘いの歴史やエピソードなどを語られました。

● 滋賀県水平社と宝木水平社の創立までの歴史

「こうかちいきの昔ばなし」

滋賀県水平社について、子どもたちにもわかりやすく啓発しようと工夫し、滋賀県水平社と宝木水平社が創立されるまでの闘いを実話に基づき物語が作られました。それを「こうかちいきの昔ばなし～人権啓発講演会～」で実演されています。これを読むと、当時の地域の人々が結集し立ち上がった様子がよくわかります。

参考:(公財)滋賀県人権センター発行「じんけん」第486号

こうかちいきの昔ばなし

『ひとびとの闘い』

この1

昔のひとびとの様子

① 苦しかったけど、胸張って生きてきた人々の話をしよう。

この村はな、室町の頃、新田の開墾の企画に近くの村々からやってきた次男や三男によって開かれたんじや。ところが、川べりにあったためにな、せっかく作った農地も大水のたびに流されてしまった。そして、貧しさで方々から集まって来た外者が住んでいる所というだけで、われのない差別までがやってきたんじや。

② 江戸に幕府がひらかれた時代じやが、古者の話では、この村は、東海道などで荷物を運ぶ仕事などをして暮らしてあったそうじやが、次第に住んでおる人も増えていった。みんなは、親鸞さまの教えを大切にしながら生きてきたそうじや。

③ だけどな、差別は厳しく、こんなことを古者が話しておった。藩の役人が、「家を建てるのに釘を使っているか。瓦を使っているか。」など調べに来おった。また、「隣の村を下駄を履いて通るな、傘を差して通るな」というような約束事があったという話なんじや。それはあんまりじゃないかと、みんな怒りを胸に生きてきたそうじや。

●その2

解放令が出た

④明治の世になって、「解放令」というのが出されたんじゃ。

村の人々は、これで差別はなくなると思んだ。でもな、そうはいかなんだんじゃ。仕事は奪われるし、生活は苦しく、差別はいっそうきびしくなるばかりじゃった。それでもこの村の人たちは、小さな村じゃったけど自分たちで誇りをもって生きていこうと、分村、独立して宝木村をつくった。

自主・自律の精神が強かったんじゃな。



⑤また、この頃は村の神社を作ったり、水口城の角やぐらを買って、繰出で運んで厳浄寺というお寺の本堂を建てたり、それはもう村のみんなの頑張りは大変なもんじゃった。身分制度の厳しかった封建時代のシンボルでもあった水口城の角やぐらが、後の「水平社」結成、すなわち部落差別を無くす運動の場所になったのは、何とも皮肉なことやなあ……。



⑥あっそうや、差別と言えはこんな話があった。「近くの店に買い物に行くとな、お金を直接受け取ってもらえず、ザルで受け取って洗われた。」など、いっばいあったと聞いておる……。そのような暗闇の中、どうにか生活しているという状況だったが、人間としての生き方を求める力は消れずにあったんじゃな。



●その3

全国水平社が生まれた

⑦これは有名な話やが、1922年3月3日、京都の岡崎公会堂で全国水平社の創立大会が開かれたんじゃ。全国の被差別部落の仲間が3000人も集まり、自主的な解放をめざす「全国水平社」が生まれたのじゃ。

今日ここに来てくださったみなさんは、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という言葉を知っておられるかな。日本人権宣言と言われている「水平社宣言」は、この時、清場の嵐のような拍手の中で生まれたんじゃ。



⑧ところが、当時この大会に参加するのは大変な苦勞がいったそうじゃ。ただどな、宝木の青年が8名も参加していたんじゃ。



⑨その大会に参加した一人は、当時のことを……「会場の内外には、大勢の警官がいたが、集まった連中はみな命がけの覚悟をしておったから、警官何者ぞといった気迫がみなぎっておった。あの時のわしの気持ちは……わしの生涯の最高の何とかやなあ……。一口にはどうとは簡単に言えへんわ」と話してくれたのがわすれられへん……。まさしくその人にとっては、その日が、厳しい差別に立ち向かう道筋がくつきり見えた「よき日」であったんじゃらな。



⑩その後、全国水平社大会に参加した8人を中心に、心をひとつにして、「滋賀県水平社」と「宝木水平社」の創立に向けての闘いがはじまったのじゃ。さまざまな嫌がらせや、公権力の弾圧があったが、困難を乗り越え、やっと1924年4月18日、滋賀県水平社と宝木水平社の創立大会が開かれた。

⑪宝木では、この大会に向けて、他の村に知らせるビラを張ったり、村中で会場となった厳浄寺の本堂を架けだして広げたり、本堂に大変な努力をしたそうなの。それでもやり過ぎたのは、差別をなくしたいという強い思いが支えたんじゃないかな。「人間よ 自然の平等にかえれ 少年少女の火の如き叫び 滋賀県水平社の光景」と、大阪朝日新聞社が伝えたそうじゃ。

⑫その後、宝木水平社は、甲賀の地域で部落解放の先頭にたって闘ったそうじゃが、戦争に向かっていった時代の流れにのみこまれてしまった。しかしなあ。この「水平社」の精神は、戦後の差別を無くす活動にしっかり引き継がれ、今も生き続けているんじゃない。

⑬水平社の歴史が、胸張って語られ、まちづくりが進められたとき、すべての差別のない、みんなが住みよい社会になると、わしは思うんじゃない。



◇水平社創立から100年 先人の想いを引き継ぎ、差別のない平等な社会を

あれから、もう100年。滋賀県水平社創立大会で演壇に立った谷口秀太郎少年(15才)は、「人間よ自然の平等に帰れ」と訴えました。その後、被差別部落の人たちは、人間の自由と平等を求めて差別と闘い続けました。

私たちは、先人の思いを引き継ぎ、差別のない平等な社会を築くため自身の行動を振り返ってみましょう。

差別解消に向けたさまざまな取り組みにより、あからさまな差別は解消されてきましたが、100年経った現在、人権・同和問題に関し、人々の意識はどのようなものでしょうか。令和5年度に本市が実施した「人権・同和問題」に関する市民意識調査の結果から考えたいと思います。

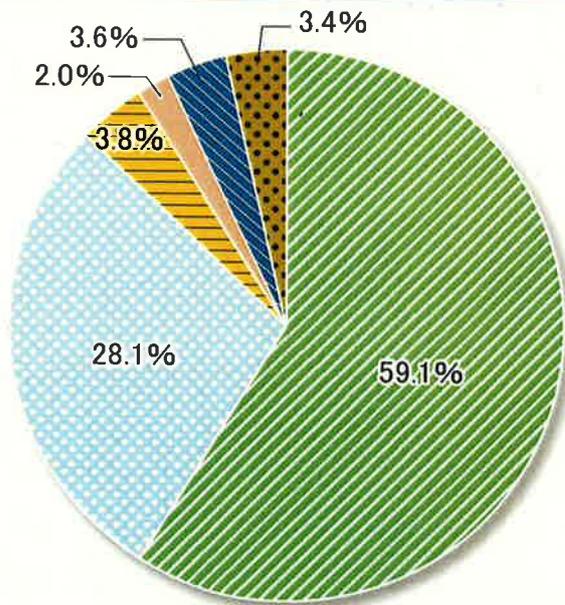
(5ページに続きます。)

◇「人権・同和問題」に関する市民意識調査の結果から

草津市では、これまで取り組んできた成果と課題を踏まえ、今後の人権教育、啓発活動の基礎資料として昭和58年(1983年)以降、5年ごとに意識調査を実施しています。

令和5年度に実施した調査結果をもとに、今の社会にある差別に関する意識を見ていきたいと思います。

自分の子どもの結婚相手が 被差別部落の人とわかった場合の対応



回答数
1,023

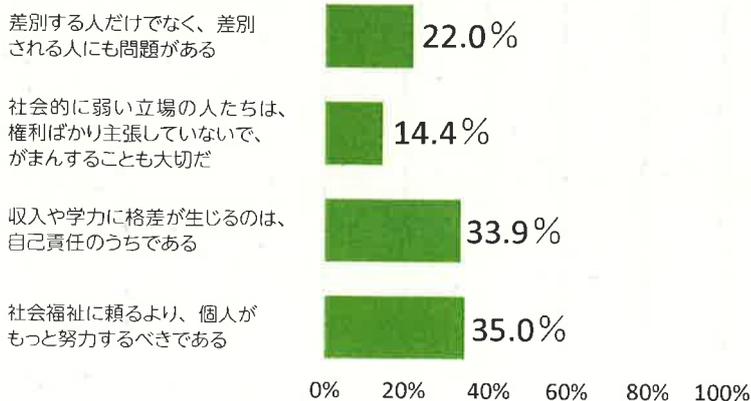
- 親が口出しすべきではなく、子どもの意志を尊重する
- 親としては反対だが、子どもの意志が強ければ仕方ない
- 家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない
- 絶対に結婚は認めない
- その他
- 不明・無回答

同和問題(部落差別)に対する 正しい理解と認識を

回答中、約6割が「子どもの意志を尊重する」と答えていますが、約3割が結婚に否定的な考えを持っていることがわかります。結婚差別に関わらず、多くの人々が持つ偏見や差別心はいつかは表面化することがあり、知らず知らずの内に人を傷つけ、不幸にしてしまうことがあります。



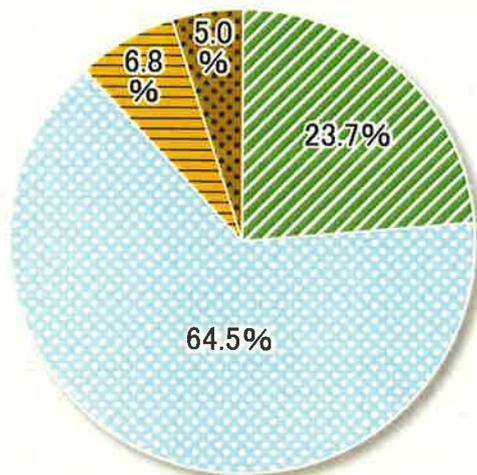
自己責任に関連する考えのうち、 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計



それって「自己責任」?

ある地域に生まれた人を、その地域出身者という理由だけで差別をする人がいる。障害がある状態で生まれただけで、その人を差別する人がいる。他にも、「家柄」、「親の職業や収入」、「病歴」など……。差別する人が、差別する理由を「自己責任」として、差別を正当化する現実があります。

人権問題に関する学習のあり方・姿勢



回答数
1,023

- もっと学習したいと思う
- 一応の理解を持っているつもりなので、あまり学習する気はない
- 自分には関係のないことなので、学習する気はない
- 不明・無回答

人権について学ぼう

「一応の理解を持っているつもりなので、あまり学習する気はない」の割合が過半数を超えています。

しかし、人権に関する研修に何度も参加した人ほど、被差別部落に対する忌避意識を持つことが差別だと考える人が多くなる傾向も出ています。「わかったつもり」でも、学習を重ねることで、より一層人権感覚が身についていくことの表れといえます。

また、ネット社会の今、インターネットやSNSによる人権侵害が相次いでいます。さらには、外国人へのヘイトスピーチ問題や、性的少数者等が暮らしやすい社会の実現に向けて、人権を取り巻く状況は常に変化しています。

すべての人が明るく住みやすいまちをつくるために、ひとり一人の人権感覚をアップデート(更新)し、磨いていくことが大切です。

第36回 いのち・愛・人権のつどい

令和6年9月23日(月・祝)

入場無料 申込不要 定員650名(先着順)

※定員超過の際は、
入場できない場合があります。

草津クリアホール(草津市野路六丁目) 12:30受付・13:00開演

■ 講師 ^{わたなべ} 渡部 ^{よういち} 陽一さん(戦場カメラマン/フォトジャーナリスト)
「戦場からのメッセージをあなたに
～ファインダー越しに見た命の現場～」

手話通訳・要約筆記・託児あり

託児希望者は9月9日(月)までに人権センターへ申し込みが必要(無料)



問い合わせ先 草津市立人権センター ☎077-563-1177(啓発担当)

* 人権センター ライブラリーの紹介 *



いじめ、リストラ、ひきこもり、貧困、介護・・・「生きづらい」と言われて久しい、私たちの国ニッポン。自殺志願者と同じ目線向き合い、共に苦悩しながら「生きていこう」と必死に語りかける姿は、世界各国の映画祭で驚嘆と感動の嵐を巻き起こした。



インターネット上の一部の情報が、誤った認識や差別意識を助長すること、表現の自由を逸脱した許されない校であると感じる大切さ、差別されている当事者が訴え続けるという負担を強いる社会構造の実態について理解するとともに、差別のない社会、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現を目指すための作品。



- 中・高生から実際に出た質問に答えるQ&A方式。
- コラムで基礎知識も身につく。
- 当事者はもちろん、周囲の人の理解に役立つ。
- 相談先一覧付。



- 「みんなに知ってほしいヤングケアラー」シリーズ(1~4巻)ポプラ社刊
監修/ 酒島淑恵 協力/ 黒光さおり
- ①ヤングケアラーってなんだろう?
- ②きみの心を守るには
- ③きみを支える社会のしくみ
- ④ヤングケアラー 先輩たちの体験談